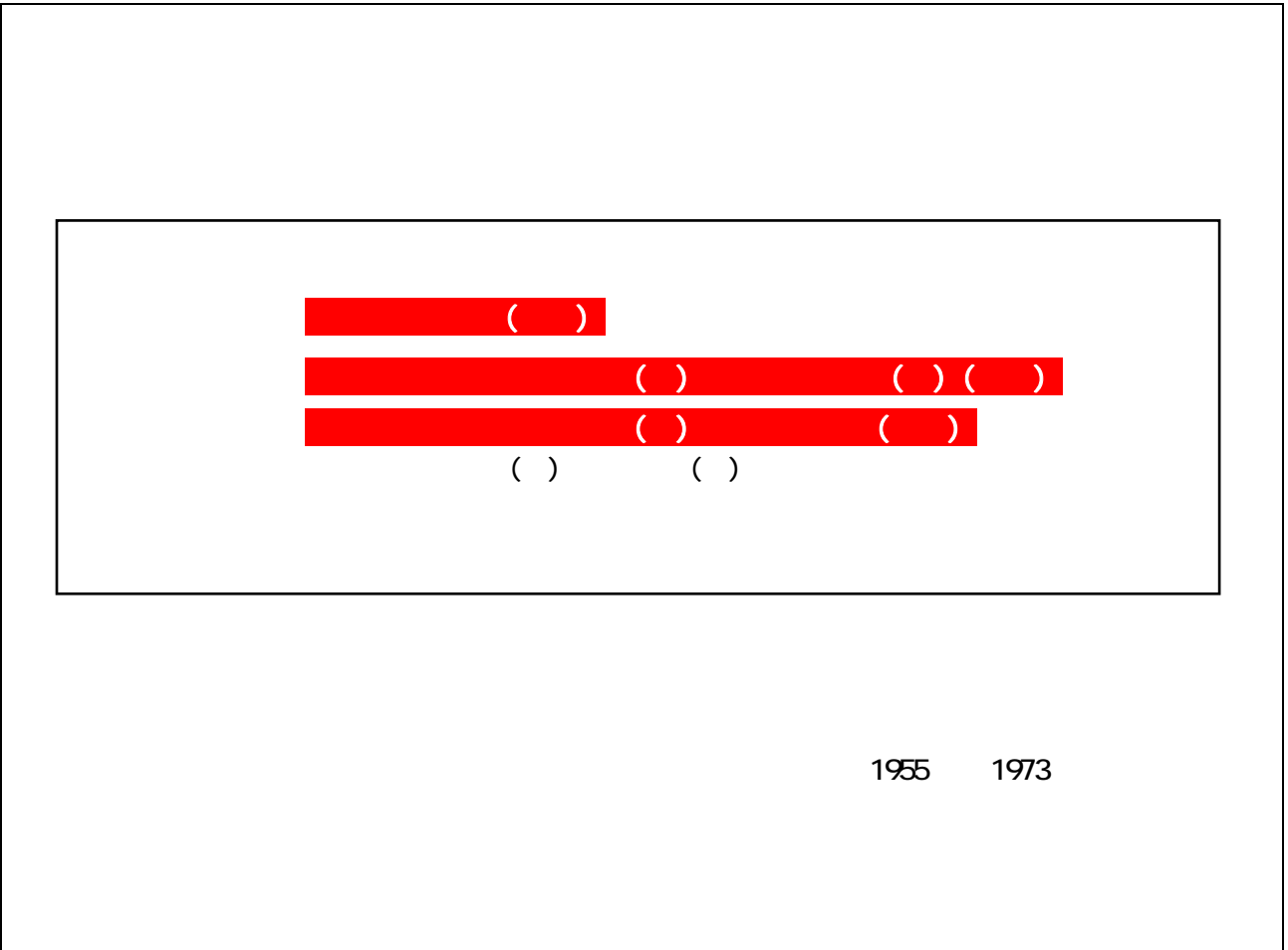


--

--



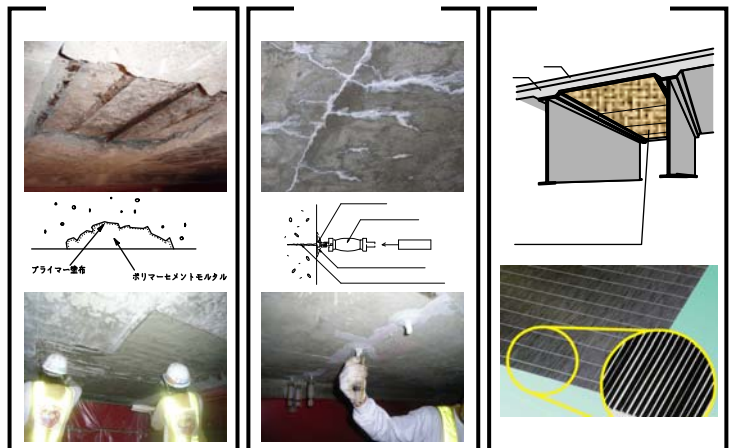
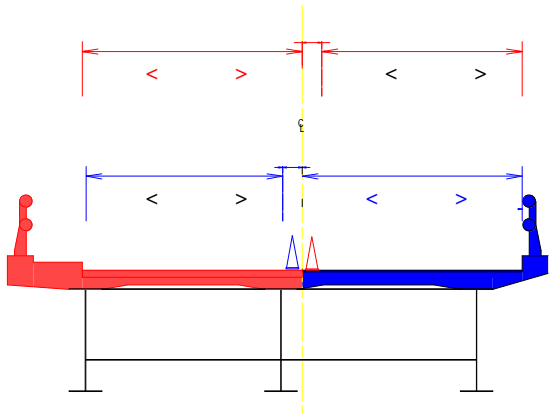
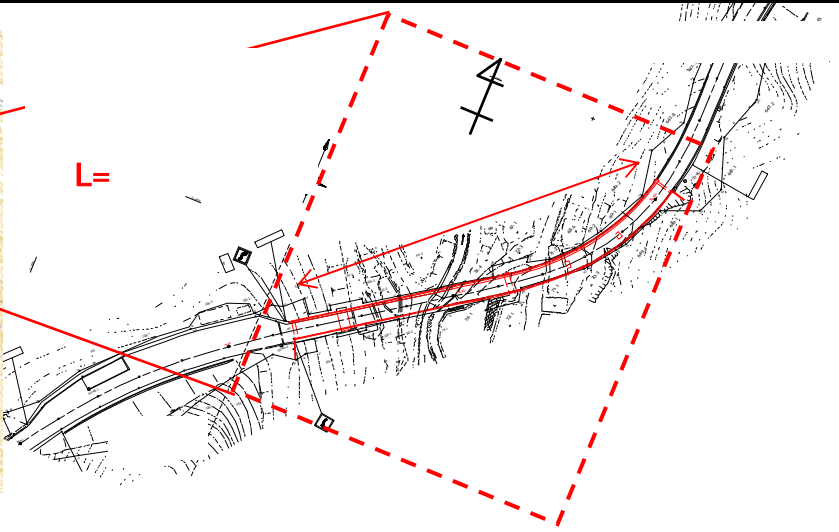
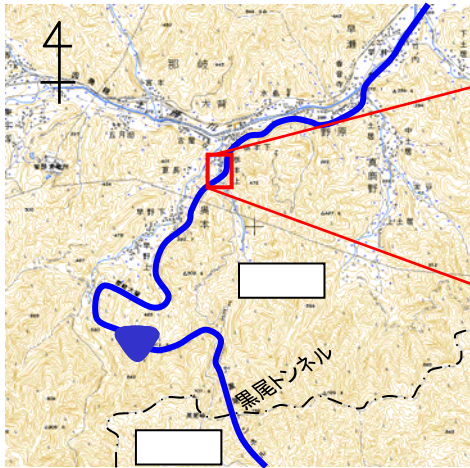
http://www.cgr.nhi.t.go.jp/tottori/



鳥取県



22 10 12		
12 17		
23 1 4		
2		



橋梁保全の取り組み

●「事後保全」から「予防保全」への転換

鳥取河川国道事務所が管理する橋梁は、平成22年4月1日現在、277橋あり、建設後の平均経年数は約30年となっています。

1955年から1973年にかけての高度経済成長期に全体の約35%の98橋が建設されています。

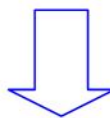
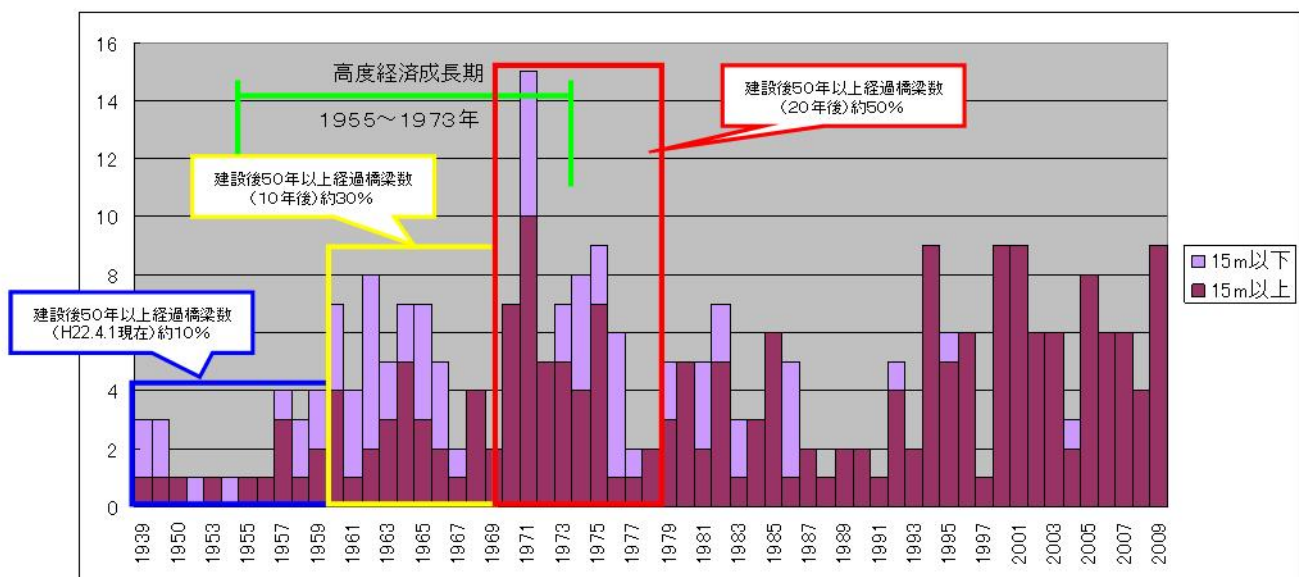
今後これらの橋梁の高齢化が一斉に進むことから、集中的に多額の修繕・架替え費用が必要となることが懸念されます。

鳥取河川国道事務所における建設後50年以上を経過した橋梁数の全管理橋梁数に占める割合は、現在の約10%から、10年後には約30%、20年後には約50%を超えることとなり、老朽化が急速に進んでいきます。

定期点検による確実な状態把握(早期発見)、点検結果に基づく確実な対策(早期補修)が望まれています。

* 対象橋梁は橋長2m以上

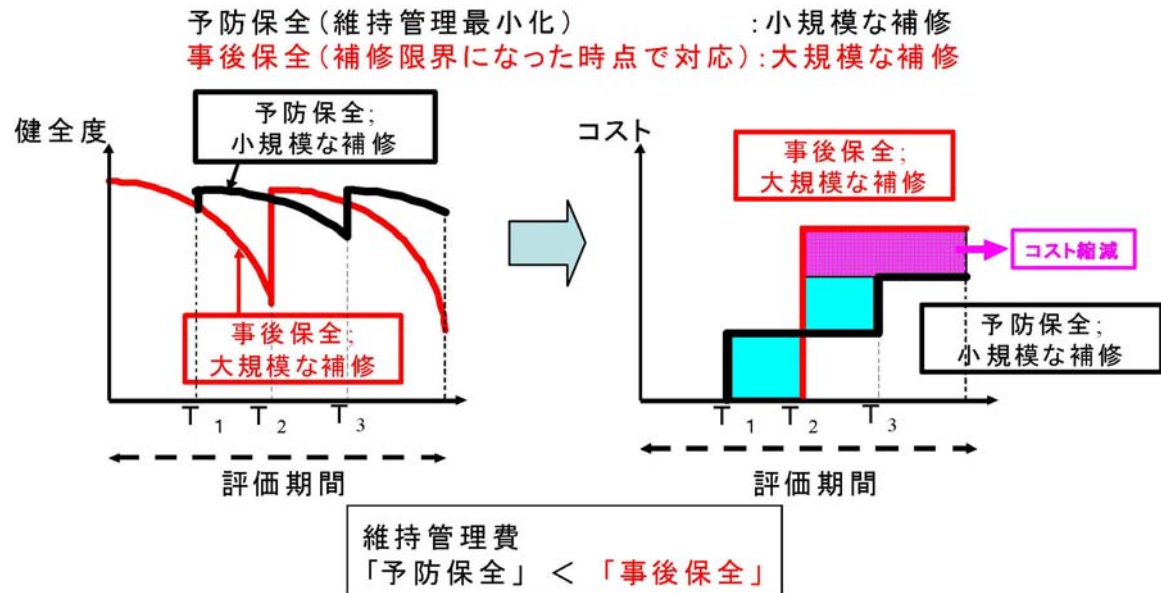
建設年次別の橋梁数



定期点検により橋梁の状態を把握し、従来の事後的な修繕及び架替えから、その点検結果に基づき、**早期発見・早期補修の予防保全を計画的に実施**、橋梁の長寿命化を図ることにより、幹線道路ネットワークの**安全性・信頼性の確保と橋梁のライフサイクルコストの縮減**を図るために長寿命化修繕計画を策定し、実行します。

● 予防保全による健全性の維持とライフサイクルコストの縮減

重大な損傷や致命的な損傷に至る前に、予防的な補修を行い橋梁の長寿命化を図ることは、橋梁の健全性の維持とライフサイクルコストの縮減に繋がります。



● 栃本大橋の損傷状況および補修概要

伸縮装置取替工 (A1) 伸縮装置取替工 (P1) 伸縮装置取替工 (P2) 伸縮装置取替工 (P3) 伸縮装置取替工 (P4) 支承防錆工 (A2)

側面図

防護柵取替え工

床版補強工(上面増厚工)

断面修復工

ひび割れ注入工

炭素繊維シート工

支承防錆工